

展示の構成と作品紹介

第一部：江戸と明治・大正時代のちりめん細工

第一部では、日本玩具博物館所蔵の江戸・明治・大正時代に作られたちりめん細工を紹介します。

江戸時代のちりめん細工

亀甲、七宝、菱などの吉祥文様をつないだ袋物、達磨や福助などおめでたい人物を題材にした小箱や巾着など、江戸文化の薫りを伝える作品が多くあります。

Photo.02
江戸後期の袋物



さまざまな技法のちりめん細工

ちりめん細工には、小さな残り裂も無駄にせず、配色や形の美しさに配慮する感覚にあふれた作品が多くあります。それは「押絵」「きりばめ細工」「つまみ細工」といった技法に現れています。

Photo.03



押絵の小箱

Photo.04



きりばめ細工の袋物

Photo.05



つまみ細工の巾着

明治の女学生たちが作ったちりめん細工

ちりめん細工が学校の教材として取り入れられると、女学生たちは作品作りを競い合いました。

Photo.06



明治時代の女学生の作品

子どものために作られたちりめん細工

子どもの健やかな成長を祈って母親たちが作ったちりめん細工。

Photo.07



宮参りのよだれかけ

Photo.08



迷子札

第二部：平成のちりめん細工～再現と拡がり～

日本玩具博物館は、実物資料や文献をもとにちりめん細工を復元する講座を開設するなど、途絶えた手芸文化の復興に取り組んできました。その活動は、近年のちりめん細工ブームの原動力にもなっています。第二部では、平成のちりめん細工を紹介します。

Photo.01



平成のちりめん細工

四季を彩るちりめん細工

Photo.09



冬から初春のちりめん細工 うぐいす袋

Photo.10



春のちりめん細工 菜の花袋

ちりめん細工の傘飾り

Photo.11



傘飾り

ちりめん細工のつるし飾り

Photo.12



つるし飾り (輪さげ)